

KSKP

障害者情報クラブニュース

25

俺はあんたらの道具じやない

代表 坂上 正司

それが、宝塚市の障害程度区分認定調査を受けたときの素直な感想でした。

まず、医師の意見書の提出について説明されました。整形外科のかかりつけの医師がいないことを告げると、「内科医でもいい」と返ってきます。「内科医では生活実態がわからない」と告げると、「問診した回答を書き込んでもらうだけだから誰にでもできる」と返ってきます。「それなら意見書を書くのが医師である必然性がない」と告げると、「とにかく書いてもらえ。医師会から各医師に通達はしてもらっている」と欣然としない回答が返ってきました。「とにかく」は説明責任の放棄を意味するのではないでしょうか。次に、調査項目の設問についての回答に移ります。日常生活動作(ADL)の問が続く中で、突然「金銭管理ができるか」という問が出てきました。

「これはADLのこと尋ねているのか?」と尋ねると、「出し入

れの管理さえできていれば、自分で財布からお金を出さなくともかまわない」と答えます。しかし、しばらく後につづく設問に答えるとき突然「現金の出し入れに銀行にはひとりで行かれますか?」と尋ねてきます。「危険なのであまりひとりでは行きません」と答えると「一部介助ですね」と先ほどと矛盾することを言い出す始末です。

結局この調査員は、障害者の生活実態を熟知していないことと間の意図することすら理解できていないことが伺えました。

さらに問はれます。床擦れについて尋ねられました。尋ねられたのは大きさだけでした。脊損の方はおわかりだと思いますが、床擦れを大きさだけで判断はしないはずです。おそらくこの調査員は床擦れすら見たことがないのでしょうか。あるいは見たことがあるとしても、内部がどうなつていてどういう影響を及ぼすのか全くわかつていないのでしょう。あるいは見たことがないで、呆れて返事もできずにいると、さらにびっくりすることがおこりました。「床擦れの治療はしているのか」と尋ねられたので「家で治療している」と答えると、「医師や看護婦以外のものがおこりました。治療行為をおこなうのは違法だから、治療はしていないと書いておく」と返してきました。この調査員は生活の合法性を調査しに来たわけではないはずです。誰がやろうが床擦れの治療をやっているという事実は曲げられないのではないでしようか。

しかもそれが業務上知り得た個人情報であると言うことを考え

れば、公務員としてあるまじき行為ではないでしょうか。
さて、話を問の最初に戻しましょう。設問のチェック用紙には最初からなにやらたくさん書き込んでありました。

尋ねてみると、支援費支給制度の勘案事項調査のときのデータを写してきたそうです。個人情報が市役所内で一人歩きをしているのかと思うと、何か漠然とした気持ち悪さを感じました。

それにも増して、調査員として調査の仕事で給料をもらつておきながら、予断を持つて調査をしていくことに怒りさえ覚えました。しかも、この調査員は特記事項をメモ程度にしか書かないのです。尋ねてみると「市役所に帰つてまとめる」という回答でした。市役所でできることがなぜこの場でできないのか不思議です。

また、録音するわけでもなくビデオに撮るわけでもないのに、単語だけ書き殴つたメモをどうやつてまとめるのか見てみたいものです。

ところで、利用者が一番気がかりな特記事項についてですが、事前に記入したこと以上には書きたがりません。介助が必要となる状況をいくつか説明しましたが、「どの設問項目を深めるものなのか」と逆に聞き返してくる始末です。本来なら調査員が考へて書き込むべきことなのですが、怒る気持ちを抑えて「これに該当するんじゃないですか」と答えると「これは違うでしょう」と返して、あくまで書こうとしません。何度もやりとりをしていくつかは書き込ませましたが、疲れました。

ここまで書くと、読者には「坊主憎けりや袈裟まで憎い」というように受取られるかも知れませんが、調査員のある態度がどう

このニュースが発行される頃には一回目の審査会が終わっているはずです。



しても気に入りませんでした。調査員は調査から三十分ほど経つ頃からしきりに腕時計を気にし出しました。その仕草にこちらも気付いていましたが、無視していました。五十分を過ぎたところで、調査員は「四十分後に市役所で次の調査があるので終わらせてもらいます」と切り出していました。どうやら調査時間を三十分程度しか用意してなかつたそうです。他市ではひとりに九十分以上かけて調査しているともきいています。そう思うと、この調査員にとって障害者は、自分の仕事を都合良くさばいていくための道具でしかなかつたようです。「自分の立てた計画通りに仕事ができれば、障害者の生活なんてどうでもいいんだなあ」という強い印象を受けました。

私は障害程度区分認定審査会の委員もやつています。このような調査でつくられた資料をもとに二次審査をする仕事です。しかも、この程度の調査結果をかなりの部分追認しなければいけないわけです。調査結果を覆すだけの権限はほとんど与えられていません。委員の一合議体の構成からいつても五人中唯一の障害当事者です。

こういう形式では、どう転んでも私は審査した結果の責任だけを取られ、審査した障害者に恨まれることになるでしょう。

一〇〇六年度通常総会を終えて

事務局長（もやつてる） 坂上正司

五月二〇日（土）、宝塚市障害者福祉センター会議室で一〇〇六年度通常総会を開催しました。

まず二〇〇五年度事業報告案と決算報告案が審議されました。この一年間で、川西ラウンド1での二度のボウリング大会と神戸ハーバーランドでの新年会に加え、九月に開催した障害者自立支援法の学習・講演会の他、二度のニュースの発行、五度のたよりの発行等が報告され、承認されました。本体事業の他に、作業所部門のILセンター、介護支援部門の介護支援センターとことこの事業報告も合わせておこないました。

代表は坂上正司が再任され、代表が役員として、坂上正司、井上きよし、石川博之、中山君江、谷尻美也香、吉原祐子を監査役として大川覚藏を選任し、いずれも承認されました。執行部体制は事務局長は坂上正司が留任、事務局はILセンターが兼務し、編集部長を堀口礼子が留任、企画部長も土井克哉が留任、会計として吉原祐子が留任、ILセンター局長は石川博之が留任、介護支援（ことごとこ）局長は中山君江が留任という形になりました。なお、ILセンターの運営については運営委員会が兼務し、委員長は役員委員として坂上が兼務、会計委員は、中野あゆみ、委員は、石川博之（局長）土井克哉、堀口礼子、出羽克一に加え七月からことごとこから一名加わることになります。ILセンター監査役は大川覚藏。

また、介護支援局（ことごとこ）の運営は、介護支援センターと

ここ理事会が行い、理事長は中山君江、副理事長は坂上正司、理事は石川博之、谷尻美也香、吉原祐子、監事は井上きよし。

その後で一〇〇六年度事業計画案と予算案が審議され、障害者自立支援法が本格的に施行される一〇月前後に、同法に合わせた形の組織改革をおこなう予定であることも含めて承認されました。協議事項の後、宝塚市障害者自立生活支援センターの運営委員として坂上と古谷かおりが選任されることを確認、各部局からの連絡事項があり終了しました。

終了後は恒例の茶話会がありました。

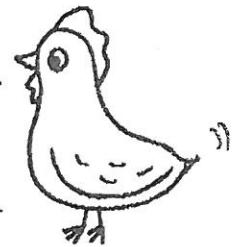


(=) 川原崎 浩史 (=)



初めてましてひろしです。気軽に「ひろし」と呼んでいただけると嬉しいです。四月から佛教大学の通信で三年生になりました。ILセンターに来さしてもらうようになって、一年がたちました。そしてこの前、ILセンターウエルカムパーティーをしてもらいました。もうすでに1年たっていますがなかなか忙しいですが毎日楽しく過ごしています。

僕はまあ、ボツボツやつていろいろと思つています。また会うことがあればよろしくお願ひします。



とーしとーです

この六月で一年になります。わからないことばかりで、何をどうやっていいのか、わからなままに、もうすぐ六月を迎えます。いろいろな人に出会い、たくさんのこと

学びました。少しはひよこから若鶏になれたでしようか。

新しく始まる制度に向い合いこれから頭が壊れていきそうです。支援費から自立支援法とめまぐるしく変わつていきますが、障害者だけでなく、私たち事業所もしつかり見ていかないといけない

今日このごろです。

とこどもこれから勉強しながら、頑張つていきたいと思つております。

ただいまヘルパーを緊急募集しております。特に若い男性ヘルパーです。週一度でもシフトに入つてくださる方、大歓迎です。男性障害者の朝の身体介助、入浴介助、就寝介助、困つております。

会員のみなさん、どなたかご紹介していただけませんか。詳しく述べます。

この夏にはNPO法人がとれそうです。現在認定待ちですが、器材は大きくなつても障害者が地域の中でごく普通に暮らせるように小さな心遣いをしていけなくてはならないと思つております。

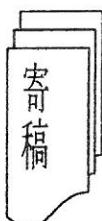
それから十月に向けて自立支援法がどう動いていくのかしつかり見なければなりません。誰かがやつてくれるだろう、誰かが言ってくれるだらうと考えてないで、自分の暮らしは自分でちゃんと見つめ直して、ともに頑張つていこうではありませんか。私たちとことこスタッフも一生懸命頑張りますので皆さんどうぞよろしくお願ひいたします。

障害者情報クラブ介護支援センターとことこ代表 中山君江

(障害者情報クラブ介護支援センターとことこ) 連絡先

宝塚市逆瀬川一丁目一一四十六なみきビル一〇五号

(電話) 0797-77-9290



ハイサイ

澤田 美智子

今年一月から、介護支援センターとことこの新人スタッフの一員になりました澤田美智子です。

中学生の頃から福祉に興味があり、ボランティアに参加したりしながら、自分が将来したいと思う仕事を探していました。

高校三年間では趣味も増え、福祉関係以外にも興味を持ちはじめました。自慢の多趣味の中でも、一人旅は一番の癒しの時間で、気分転換も含め全国を転々としていました。結局、高校卒業する時になつても自分の進路がはつきり決められず、でた答えは、一人旅で巡ってきた全国の中でも、一番気に入り住みたいと思つた沖縄に、何のあてもなく移住することを決心したのです。

高校卒業後、大好きな沖縄での生活がスタートしました。もと
もと海・空・星が大好きな私は、これから沖縄のどんな風景を見
て感じながら生活できるのか期待感でいっぱいでした。

買い物などに外に出れば、おばあ（おばーちゃん）に理解でき
ない沖縄の方言を喋りかけられて、にこにこしながら相づちをう
つともしよつちゅうでした。おばあだけじゃなく同じ世代の人
が喋る言葉でも理解できない言葉がいっぱい、これはヤバいと
思つて、方言の勉強も一生懸命でした。

面も多かったです。

移住して生活してみると、やっぱり経済面も含め良いところだ
けではありません。沖縄独特ののんびりした生活に、関西人の私
にはのんびりしすぎでイライラしたり、仕事の面等、悩まされる
面も多かったです。

ふとため息が何気にでた時、まず外に出ます。外に出ればまず
海風を感じ、すこし歩けば砂浜、見上げれば澄んだきれいな青い
空、夜に出れば空には鮮明な星☆車をとばして少し離れた島に行
けば、それはまた格別です。

こうやつてツライ事があつても、あつたかい沖縄と、あつたか
い心のうちなーんちゅ（沖縄の人）に、自然に、癒されていまし
た。二年半の短い間でしたが、沖縄で生活したからこそできた色
んな経験や、出会い、自分自身のことを改めて見直すことができ
たと思います。

観光や旅行、気分転換にでもぜひ沖縄に足を運んでみて下さい。
のんびり気分を味わえるのはもちろん、きっと何かプラスになる
モノを得られると思います。

電動車椅子サッカーの主なルール

① チーム四人で四対四で戦います。（その内時速六キロメートル以上の

電動車椅子はチーム二人まで）

② ボールの大きさはJIS規格九号（約五〇センチメートル）
③ キーパーは基本的でない。（作戦上一人残るとかは可）
④ コートはバスケットボールのコートです。

⑤ 台形の中に一人以上のオフェンスプレーヤーが入るとオフサイドにな
りフリーキックになります。

⑥ ボールが一〇秒以上止まっているもしくはボールがこれ以上動かない
と審判が判断した場合はフリーキックになります。

⑦ 電動車椅子のフットレストに軽自動車用のタイヤを半分に切ったもの
をバンパーとして装備させる。

⑧ バンパー以外の場所に接触した場合はファールになりフリーキックとな
る。

⑨ サイドラインより外に出た場合はキックインでゲームを再開する。
⑩ 介助者をチーム一人つける事ができる

第一回チャレンジスポーツ大会』に参加しました。最初は一種目ぐらいは勝てるかと
坂上さんとエレセンターの仲間で応援に行ってきました。

チャレンジスポーツに参加して

私は（土井）と吉原君は六月一七日に玉津の兵庫県立リハビリ
ーションセンター体育館で開催された『第一回チャレンジスポ
ーツ大会』に参加しました。最初は一種目ぐらいは勝てるかと

そんな軽い気持ちで会場に着きました。

いざ、会場に着くと私の見た事のある電動車椅子から見た事のない電動車椅子まで三〇台の電動車椅子が集まつていました。(参加者も三〇人って事なんだけれどネ) 中でも車高の低い電動車椅子が一台あつてどういう動きをするのかなと思つていました。

最初の種目は三〇メートルのストレートでした。時速四、五キロメートルと六キロメートルに分かれて二人ずつスタートして順位はつけなくてタイムは本人だけに教えてくれました。私としては良いタイムと思っていましたが、すごく速い電動車椅子がありました。それはその車高の低い電動車椅子でした。

次の種目は三〇メートルのストレートコースのスラロームです。自分としては良い方だつたと思います。だが他を見てみると遅い方だつたのが分かります。

三種目は バックも含む三〇メートルのスラロームです。市販の電動車椅子のバックは遅くなるけれど、車高の低い電動車椅子は前進もバックも同じ速度で進んだと思い、その分運転も難しそうと思い、運転手の人の腕の良さには感心しました。

それが終わると電動車椅子サッカーの模範試合がありました。

電動車椅子サッカーと言うのは、サッカーのルールを電動車椅子でするという競技で、足置きの所を皆さん工夫していく、車高の低い電動車椅子の本領発揮と言つたところで二〇分ハーフを我が家

試合が終わつてから、私達にもさせてくれることになり、昔から興味があつた私は、もちろん参加しました。私の車椅子は普通

のステップだったので、やつてみるとなかなかうまくボールコントロールが出来ずに苦労しました。でしたがとても面白く、また出来る機会があればチャレンジしてみたいです。第二回、第三回と、あればどんどん参加してみたいです。

最後に応援に来てくれたI-Lセンターの皆さんや代表の坂上さんありがとうございましたながら、この感想文を終わらせていただきます。

土井 克哉

チャレンジスポーツ

吉原

スラローム大会に電動車イスで出場しました。

電動車イスサッカー 参加しました。

面白かった。

体験試合でシューートしました。

吉原 匠康

障害者情報クラブの歴史 (1)

坂上 正司

最近、役所などと書類のやりとりをするときに、当クラブの沿革を教えて欲しいという声がよく出できます。確かに一九九五年頃までは市役所の職員の大多数が当クラブのことを多かれ少なかれ知っていたものです。しかし、当時を知る人達は出世してしまって、現場にはほとんど残つていません。それは会員の中でも同じ

ことです。そのような意見が役員から出るようになつたので、一度設立当初からの歴史を振り返つてみることにしました。

障害者情報クラブの歴史は大きく四つに分かれているといえるでしょう。そしてその転機は約五年ごとに訪れているようです。第一期を表すキーワードは「ウォーカリー」と「ガイドブック」（一九八九—一九九五）。レジャーとまちづくりに関する情報収集と提供に終始した時代と言つていいでしよう。内部的にも対外的に最も楽しく活発であったように見える時期ですが、その割に深さがなかつたのかも知れません。第二期を表すキーワードは「震災復興」と「介助派遣」（一九九五—二〇〇〇）。阪神大震災からの障害者救援に携わり実績を挙げました。それを契機に表面化した介助の問題を取り組み出しましたが、意思統一ができず迷走しました。作業所としてI-Lセンターをつくりましたが、当然委託されるはずであつた障害者生活支援事業を受けられず悔しい思いもしました。リーダー不在の時代だつたかも知れません。第三期を表すキーワードは「自立生活センター」（二〇〇〇—二〇〇五）。I-Lセンターの所長に中山君江が就任して、当事者主体の意識が高まり活動が活発になっていく時期です。そして現在の第四期になります。今を表すキーワードは後の歴史が決めるものですが、名を残せるようそれぞれのセクションでがんばつてもらいたいものです。

このような障害者情報クラブの沿革を何回かに分けてニュースで紹介していきます。

「やつぱり…永遠のアイドル！」
古谷かおり

私が中高生の頃に全盛期だったアイドル！マツチこと近藤真彦が、デビューから「二十五周年」を機に歌手活動再開！昨年暮れから今年始めにかけてTVにも多く出演した。この一〇年近くの間、カーレースの方に力を入れていて、それはそれで「自分の好きなことを頑張っているんだなあ」と応援はしていたが、歌つてくれなければ、コンサートもやつてくれないし…寂しかった。

今年二月の日本武道館コンサートには、飛んで行きたい気分だった。ワイドショーでその模様を観ながら、「大阪でもやつてほしい」と願つた。すると、そんなに日が経たないうちに、情報メールで「全国ツアー」先行予約のお知らせが来た。そして、六月、大阪フェスティバルホールへ、一〇年ぶりに、生のマツチに会いに行けることになった！

コンサートの構成に演出、ステージセットに、衣装も…どれをとつても、カッコ良すぎ！やつぱり…私にとつて永遠のアイドル！コンサートが始まると想像以上に気持ちが高ぶつた！

「スニーカーぶるうす」や「愚か者」など、ヒット曲のオンパレードで、「こんなコンサートが観たかったのよ」という感じの、私の期待通りのものだつた！

そして、ここで一番話したいこと。

ホールに着くと、私と同年代の女性群の間をかき分けながら案内された。車椅子のお客さんがそのまま次々と、何人もいる係員に抱えられて階段を上がり降りして、車椅子席の近くのドアの前

でもあるが、身障者用トイレの前に集まっていた。トイレの前とは気が利いている……とも言えるが、変な気もした!!

このホールは要所要所に車椅子席があるようだが、それでも足りないくらい、車椅子のお客さんが多くて、私は前方の客席の左端へ案内された。そこは、十五年前もここに来た時、「観えないな」と思いながら、必死に観ていた所！今回もオープニングでは、マッチがステージセットの上で歌つてくれていたから良かつたが、階段から降りてきたら見えないんだろうな…と諦めモードに入つて…まあ、ここに来られただけでもいいか、という気持ちにもなつていた。でもやっぱり、マッチの姿を観ていきたい…と心の中で思つていて、係員が、「もつと観やすい場所に移動しま

ようか？」と言つてくれた。一旦、ロビーの方へ出て、今度は客席の前方右端の、普段は何か道具を置いているような場所を空けて、私ともう一人車椅子のご婦人が並び、友人（介助者）はその後ろに座るようにしてもらえた。私の友人は「昔のアイドルも好き！」と言つう二十歳そこそこの若い子。

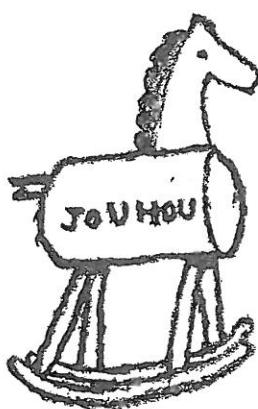
そこからは、マッチの姿がよく観える！客席の人達がノリノリでずっと立ち上がっていても、その人達の目の高さより少し高い所から観える状態だったので、すごくラッキー！「当日は、車椅子に座つたまま楽しみたいので、ステージがよく観えるコーナーを用意して頂けています。」と、事前にコンサート事務局にお願いしていたことが、ちゃんと届いて叶つて驚いた！

車椅子席希望でチケットを申し込めるところから始まり、体の不

自由な者にハガキでの案内など細かい配慮があり、さすが、ジャニーズ事務所！10年も前なら考えられなかつたが、今は思う存分、コンサートが楽しめるようになつてきた！

私のジャニーズニー体験記

土井 克哉



私は六月三〇日から一泊三日で東京ディズニーリゾートに行きました。

前、家族でディズニーランドに行つたのですがディズニーシーには、行つた事が無くどういう所か楽しみでした。

旅行社に頼んだ時は一日目はシーで二日目がランドの予定でした。ところが発券してもらう為に旅行社に行つたら一日目がランで一日目にシーに行く事になつていきました。変更は、と聞いたら旅行社はもう出来ませんと言つてきました。その時の私はランもシーも楽しさはそんなに変わらないと思いました。

六月三〇日の十時三五分のひかりで新大阪を出発し、十三時三五分に東京に到着、京葉線に乗り換えて浦安に着きました。浦安までは遠いのかと思つていたら東京から急行で二〇分で着いて速いんだなと感じました。さて、駅に着いたはいいけれど『ウェ

ルカムセンター』が分からぬ。直接デイズニーランドの受け付けでバスポートに換えて入場。

少ししてから『デイズニードリームズオンパレードムービンオング』が、あると聞いて並ぼうと思っていたら車椅子席があつたので並ばなくとも見られました。それから『スプラッシュシユマウンテン』に乗ろうと思つて受付に行つたら係の人に『「みどりの紙」はお持ちですか』と言われました。私は何の事か分かりませんでした。聞いたら障害者用のファストパスみたいなもので時間が来れば優先的に乗せて貰えるようになつてゐるみたいです。私は回転系の乗り物は乗れないけれど落下系は好きな方なので難なく乗車。

それから3D映像のアトラクションを見てホテルに行きました。ホテルに行くモノレールの駅の所に『ウエルカムセンター』がありました。

皆さんもデイズニーに行くことがある時は、事前に調べておいた方がいいですよ。

二日目以降の話は、皆さんの反響があれば、書かせていただくかもしれません。感想をお待ちしています。

食い倒れ

金岡 幸一

皆様、私は二十歳の時に交通事故で「頸椎損傷」になつてしましました。それまでは全くの健常者でしたので好き勝手に行動し

ていました。勿論若かつたので自分の経済範囲の内でですが、ドライブ・映画観賞・外食、等好きに出来ていました。

ところが、障害者、それも手が使えない立場になつてからは自分自身の事が殆ど出来ない状態になつてしましました。外出はおろか外食なんて、その当時は考えてもみませんでした。

そんな私ですが、ガイドヘルパー制度が出来てからは、外出や通院に結構利用させて頂く機会が増え、おのずと昼食を摂るためにレストランや飲食店に行くのも当然の事になつていきました。

さて、私の日常行動範囲ではそんなに遠くに行く、と言うことはなく殆どが阪神間内、それも大阪北が主なところです。

ですが、先日(六月二十八日)に難波に行く用事が出来たので、ついでに、と言つては何ですが、道頓堀のか有名な「グリコ」の看板を見よう、そしてここまで来たのだから、時間的にもお昼だし「くいだおれ」で昼食をしようとした店内に初めて入りました。恥ずかしながら私は完全に「おのぼりさん」気分でした。

お刺身御膳と小ジョッキーで二千円弱、私のお腹にはやや多い量をほぼ完食。もう、何も入らない。これがほんとの“食い倒れ”なんちゃつて!なんて「おやじギャグ」を言いながらお店を後にしました。



小規模作業所同志のつながり 〈2〉

きららさんより、紹介文をいただきました。

小規所作業所 「自立の家きらら」

住所 宝塚市中州一一五一一一二
TEL ○七九七一七七一〇二〇

「自立の家きらら」は、二〇〇〇年四月、逆瀬川駅前に、六名の利用者で開所した知的障害者の小規模作業所です。今年、利用者は十七名になりましたが、六月一人就職したので、現在十六名です。この六年間で、五名が就職していきました。

県立こやの里養護学校卒業生で立ち上げたため、利用者は、同校出身者が多く、宝塚市民だけでなく、尼崎市、川西市、西宮市、伊丹市などにまたがっています。

作業内容は、JTBの封入業、自主製品（刺し子雑巾）づくり、公園の維持管理業務委託、建設会社の駐車場整備、個人住宅の庭整備（お年寄りの住宅など）等ですが、最近、外作業が中心になつてきました。（外作業の方が給与を高くできるメリットがある代わりに疲れます。現在の利用者給与は、やつと一万円～二万円になりました。）

その他、バザー、きょうされんカレンダー販売、署名・募金活動などいろいろなことに取り組んでいます。また、旅行、交流運動会、クリスマス会などお楽しみも一杯しています。

職員は、常勤三名、非常勤一名の四名です。

映画「明日の記憶」を見てきました。

うめ吉

主人公の渡辺謙が、及川光博の演じる医師から若年性アルツハイマー病を告知されたとき叫んだ言葉、「それって、ゆっくり死んでいくってことじやないか」がものすごく耳に残っています。

この台詞は、自分が普通だと思っている人には、厳しい現実を目の前に突きつけられたショックを感じることだと思います。僕も最初はそのように思ったのですが、しばらくすると、この言葉が妙にしつくりと、そしてしつとりと心にしみこんできました。

なぜなら、障害者として生きるということは、まさにゆっくりと死んでいくことだと思えたからです。

障害者は、健常者より「死」に近いことを意識できる。

言い換えると、「死」に近いことをより実感できる。

大滝秀治扮する老人が言います。「わしは呆けてなんかおらんぞ。そんなことは俺が自分で決める」ものすごく共感できました。

この映画は、みる人の視点によって見えてくるものが違つてくるかも知れません。

だからできるだけいろいろな人に見てもらいたいと思います。

印刷業務

昨年十一月から印刷業務をしております。年賀状印刷や（会報・ちらし・名刺・コピー等）をしています。是非ILセンターにお申し付けくださいよろしくお願ひします。

バザール用品提供のお願い

障害者情報クラブILセンターでは障害者の自立支援の資金作りのためバザール用品を募集しています。

収集期間＝随時集めています。

収集品＝日用品・衣料品・雑貨品・食料品（サラダ油等）

何でも結構なのですが、新品をお願い致します。

誠に勝手ながら、古着は、御遠慮願います。

収集方法＝お手数ですが連絡下さい。収集方法について、

ご相談させて頂きます。

ハンドブック取材～岡町～

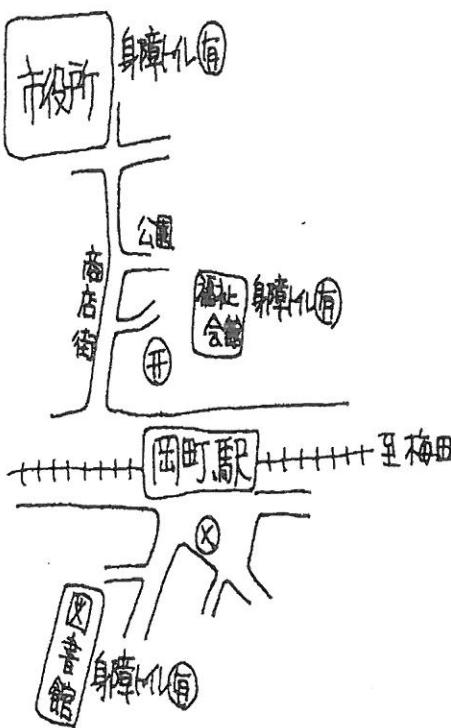
今回は阪急宝塚線の岡町を取材してきました。駅もきれいで身障トイレもちやんとありました。

駅の周辺は、

とてもきれいな所なんですが、一步その奥に踏み込むと、何か懐かしい商店街や神社が身近にある、住み良い街だなと思いました。

今回の取材で、駅は勿論の事、駅から500メートル以内に、豊中福祉会館、豊中市役所第一、二庁舎、豊中図書館に身体障害者用トイレを確認しました。岡町には、近くに神社や古墳などが周辺にあり、今回の取材で癒されました。皆さんも岡町に出かけられた際には散策されるのをお勧めします。癒されますよ。

石川



西公民館の自動販売機をご利用ください

宝塚市立西公民館（阪急今津線小林駅から徒歩二分）の三階・レクルームBの前に設置されている大塚製薬の自動販売機は、管理のジャパン・ビバレッジ（旧・ユニマット）のご協力により収益の一部が障害者情報クラブの運営費として一九九四年四月より寄付されています。しかし、三階のわかりにくい場所におかれているため、なかなか売り上げがあがらず、収益が伸び悩んでいます。みなさん、西公民館をご利用のおりには、是非、大塚製薬の自動販売機をご利用いただき、当クラブを応援して下さい。

●事務局より

○寄付金の御礼

以下の方々より寄付を頂きました。

今後の会の運営で有効に使わせて頂きます。
ありがとうございました。

岡田 憲也 中島 浩明
十川 一郎
福田 弥生
匿名希望の方
今西 永兒

敬稱略順不同

障害者情報クラブニュース25

編集人

障害者情報クラブ編集部 堀口礼子・出羽克一

編集責任者

障害者情報クラブ事務局長 坂上正司

所在地 〒665-0816

兵庫県宝塚市平井2丁目1番10号ハイツ・エフ・オー205号

障害者情報クラブ I Lセンター

TEL&FAX 0797-82-2233

EMAIL sjc11@hotmail.co.jp

郵便口座 14360-43110611 障害者情報クラブ

銀行口座 三井住友銀行 逆瀬川支店 普通 3566211

障害者情報クラブ

